

学校感染症一覧

北海道八雲高等学校

※一覧表にある感染症が学校保健安全法により「出席停止」と規定されています。

※学校感染症と診断された場合は学校に連絡をするようお願いします。

○第一種感染症 ※公益財団法人日本学校保健会発行「学校において予防すべき感染症の解説」参照

感染症名	出席停止期間
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルスMERSコロナウイルスであるものに限る。)及び特定鳥インフルエンザ	治癒するまで出席停止

○第二種感染症

感染症名	症状	潜伏期間	出席停止期間
インフルエンザ	発熱、頭痛、悪寒、関節痛、倦怠感、咳、鼻水、咽頭痛	1～4日 (平均2日)	発症後5日経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで
百日咳	連続して止まらない咳が続く 発熱はない	7～10日	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性部室製剤による治療が終了するまで
麻疹(はしか)	発熱、咳、鼻水、目やに、結膜充血、頬の内側にコプリック班(白点)	8～12日	解熱後3日を経過するまで
風しん(3日はしか)	発熱、発疹、耳の後ろ、首、脇の下などの腫れ、咳、結膜の充血	16～18日	発疹が消失するまで
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺の腫れ(片側～両側の顎の後ろが大きく腫れて痛む)、発熱、嚥下困難	16～18日	耳下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
水痘(みずぼうそう)	発疹→水疱瘡→かさぶた、かゆみ	14～16日	全ての発疹が消失するまで
咽頭結膜熱(プール熱)	高熱、咽頭痛、結膜の充血、首のリンパ筋の腫脹	2～14日	主要症状が消失した後、2日を経過するまで
新型コロナウイルス感染症	発熱、咳、全身倦怠感、頭痛、下痢、味覚、嗅覚異常	2～7日 (中央値は3日)	発症した後5日経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
結核	初期は自覚症状なし、X線検査で発見、発熱、咳、たん、疲労感、体重減少	2年以内	症状により感染のおそれがないと診断されるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	高熱、頭痛、嘔吐、頸部硬直	4日以内	

○第三種感染症

※第三種の出席停止の基準は、病状により学校医やその他の医師において感染のおそれがないと認めるまでとなっています。
また、その他の感染症についても必ず出席停止を行うべきというのではなく、感染症の種類や状況などを考慮した上で判断するものとなっています。

感染症名	症状	潜伏期間	出席停止期間	
コレラ	下痢、嘔吐	1～3日	症状により感染のおそれがないと診断されるまで	
細菌性赤痢	発熱、腹痛、血便、嘔吐、下痢	1～3日		
腸チフス	発熱、発しん	7～14日		
パラチフス	発熱、発しん	1～10日		
腸管出血性大腸菌感染症(O-157)	激しい腹痛、下痢、嘔吐、吐き気	3～8日		
流行性角結膜炎	眼の異物感、目やに、結膜の充血	5～7日		
急性出血性結膜炎	眼の痛みや充血、出血	1～2日		
その他の感染症として「第三種に含まれることがある	溶連菌感染症	高熱、発疹、扁桃の発赤や腫れ、咽頭痛、いちご舌	2～5日	適正な抗菌剤治療開始後 24時間を経て全身状態が良ければ登校可能
	ウイルス性肝炎	発熱、鼻水、咳、喘鳴、呼吸困難	2～5日	A型・E型:肝機能正常化後登校可能 B型・C型:出席停止不要
	手足口病	手足の水疱、手足の発赤	2～7日	発熱や喉頭、口腔の水疱、潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
	伝染性紅斑(りんご病)	頬の赤み、手足の発赤	10～20日	発疹(りんご病)のみで全身状態が良ければ登校可能
	ヘルパンギーナ	発熱、咽頭痛	2～7日	発熱や喉頭、口腔の水疱、潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可能
	マイコプラズマ感染症	咳、発熱、咽頭痛	2～3週間	急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
	感染性胃腸炎	嘔吐、吐き気、下痢、発熱、腹痛	1～3日	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能